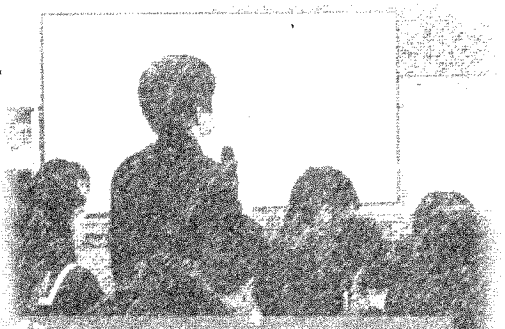
国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ
T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース



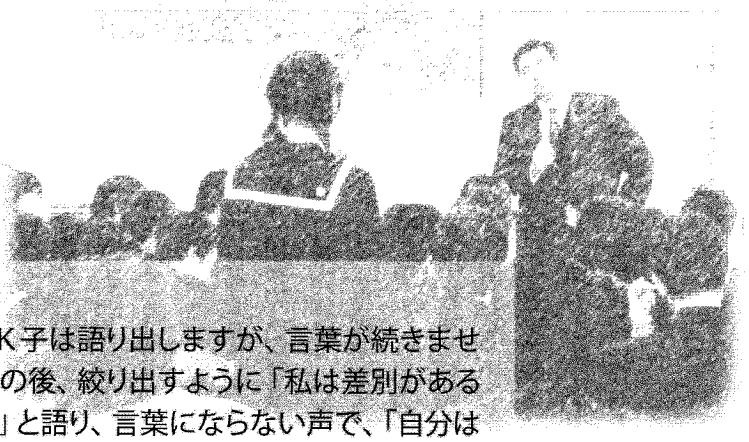
D組公開授業でのK子の発言

D組の公開授業で、K子は資料「私の目をみて!」に寄せて、健気にも繰り返し繰り返し発言をしていきました。サポート役の私はK子が発言する度に、「それは本当の気持ちではないだろう」と思いました。そして、K子の手紙が、私の心に重く残ったまま全体授業が始まりました。

本心を引き出す全体学習の語り合い

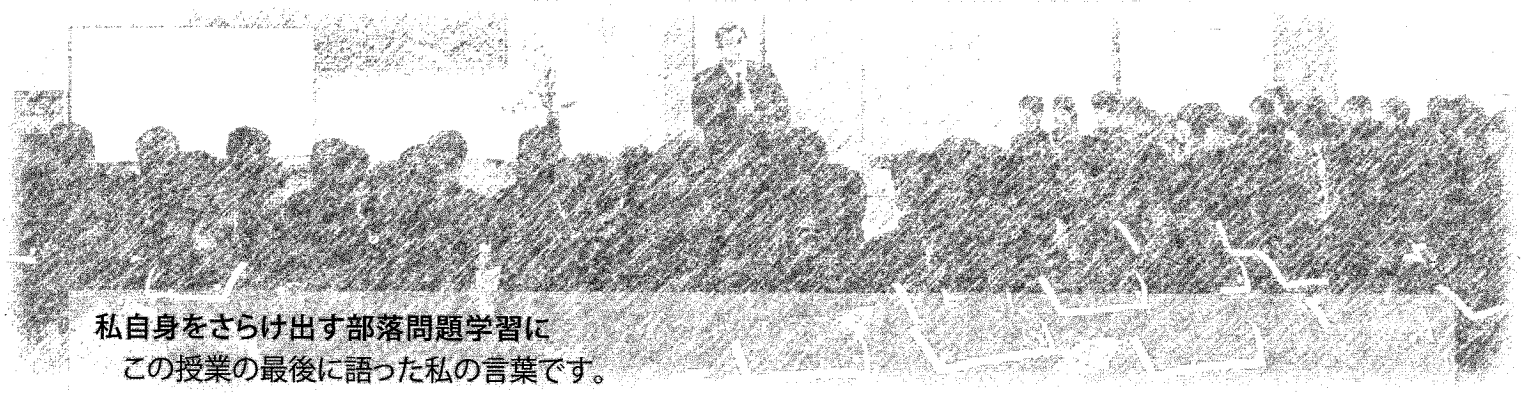
全体授業（学年全体の語り合い）は、私が担当です。その授業では、今まで以上に次から次へと生徒たちの思いが語られていきました。そして、授業があと数分で終わろうとする時、K子が手を挙げました。

私は、K子のまなざしに、強い決意を感じながら指名しました。



本心を語ろうとしたK子の言葉

「こんなこと言ったら怒られるかもしれない……。」K子は語り出しますが、言葉が続きません。K子の目には涙があふれています。しばらく沈黙の後、絞り出すように「私は差別があると先生から教えられて……。それは先生たちが……。」と語り、言葉にならない声で、「自分は部落出身……」ということをポツッとつぶやきました。K子の涙が最後の発言となりました。



私自身をさらけ出す部落問題学習に

この授業の最後に語った私の言葉です。

「今のK子さんの心の声がどれだけみんなに届いただろうか。本当の仲間になっていく、そんな部落問題の学習をしていきたいと思う。人間は、他人のこと、遠くのことに対しては、美しい言葉を吐くこともできる。

でも、近くの出来事や自分自身の問題になってくると、あれほど美しい言葉を吐いた人が、見事に差別者になっていき、醜さをさらけ出していく。そんな悲しい現実がいっぱいある。私たちはそれぞれがもっている本当の思いを出し合える関係でありたい。その思いをお互いが大事にし合い、共に励まし支え合いながら生きていく絆で結ばれたい。

この問題を自分自身の生き方の問題としてとらえ、許さない、許せないんだという生き方をこれからも学習していきたい。涙を流す仲間がいない、今日も学校へきてよかったと思える教室でありたい。そのために、自分はこの問題にかかわってどう生きるのかを語り合っていきたいと思う。」

私自身をさらけ出すことなしに、生徒たちの本気の語り合いは生まれない。ここから私の人生は大きく変わっていきました。

本気の人権学習は、――「すべてを変える」 うずしおブランチ共同代表　森口　健司